

フロンティアスクール報告書

都道府県名	広島県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	広島市立鈴が峰小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	3	3	1	15	21
児童数	68	64	68	64	84	86	2	436	

II 研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身につけ、自ら学び続ける子どもの育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- 全学年・・・学校全体で研究をすることで、系統的な成果を出すことの大切さを感じたため。
- 国語と算数・・・教科の中で、基礎・基本となる内容が多数あると考えたため。

(2) 年次ごとの計画

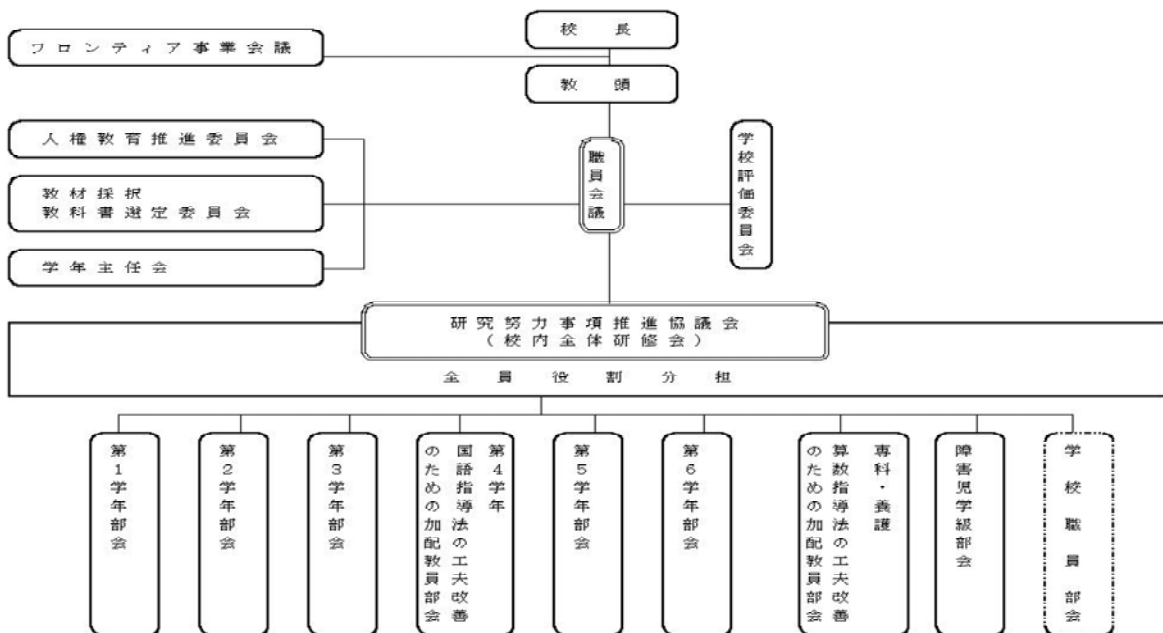
平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 算数科を中心とした指導方法・指導体制の工夫改善 ○ 研究の見通し 教材開発や指導方法の工夫改善を行えば、確かな学力が身につくであろうと考えた。 ○ 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 評価規準・基準の作成 ② 学力実態調査、学力分析 ③ 指導計画作成 ④ 単元別指導教材開発 ⑤ 指導方法の工夫…少人数指導、課題別指導、習熟度別指導、交換授業、支援体制のあり方など ⑥ 校内研修（算数的活動・評価について など） ⑦ 授業研究（全学年） ⑧ 評価方法の工夫改善 ⑨ 中学校・地域との連携
--------	--

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 国語科を中心とした授業づくり ー読む力をつけるためにー ○ 研究の見通し 前年度取り組んだ算数科を中心とした指導方法・指導体制の工夫改善の成果と課題を明らかにし、国語科の学力実態調査の結果から「読みとる力」に研究の視点を絞り取り組むことによって、国語科のみならず他教科の学力向上を図れると考えた。 *仮説 ア 読む力に関わる力の明確化を図り、系統的、段階的に指導を行うことで読みとる力が高められるであろう。 イ 児童の興味・関心のある教材の開発を行うことにより、児童が意欲的に学習に取り組み、読みとる力の向上につながるであろう。 ウ 考える場を大切にした授業づくりを行えば、児童の読む力を高めることができるであろう。 ○ 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 読む力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・学力実態調査、学力分析 ・読む力の明確化、共通理解と指導法の研究 ・説明文の教材分析
--------	--

度	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの開発、教材開発 ・音読指導の充実と工夫 ・評価の工夫 ・指導法の工夫改善……少人数指導、課題別指導、習熟度別指導、支援体制の在り方 中学校との連携 ・ドリルタイムの継続、教材開発 ② 考える場を大切にしたい授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・指導パターンの工夫 考える場の設定、学び合う場の設定、発言力の育成 ・特色ある授業づくり ・学級づくり
---	---

平成 16 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 国語科・算数科を中心とした授業づくり ー 考える力の育成 ー ○ 研究の見通し 2年間の研究の成果と課題を明らかにし、これまでの取り組みの充実・発展を図り考える力を育むための授業づくりの研究を進めることによって、確かな学力の育成と自ら学び続ける児童の育成が図られると考える。 ○ 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 考える力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・学力実態調査、学力分析 ・算数科・国語科における考える力の明確化 ・教材開発、ワークシートの改善と開発 ・評価の工夫改善 ・指導法の工夫改善……少人数指導、課題別指導、習熟度別指導、支援体制の在り方 ・ドリルタイムの継続、教材開発 ② 考える場を大切にしたい授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・指導パターンの改善 ・発言力の育成……発言方法、発言内容（理由づけ発言とその内容）、もの見方考え方の育成 ・教師の指導力の向上
--------------------	--

(3) 研究推進体制



* 昨年度の組織を見直し、研究努力事項推進協議会による全員役割分担一役一人制をとった。しかし全体がつかみにくく機能度が低かったため、関連の深い役割でグループを作り、グループ会議を持ち協議して案を作るシステムに途中で変更した。

Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 音読指導を段階的に行うことにより、読む力の基礎をつけることができた。
- (2) 「読むこと」において学習内容に応じた指導法の工夫と習熟度等に応じたワークシートの工夫を行うことにより、児童に主体的に学ぶ力と、読む力をつけることができた。

(1) 読む力の育成

①音読指導の充実

- ・音読の学年目標を押さえ、学年に応じた指導を行うことに重点を置いて指導した。
- ・児童の音読に対する意欲を増すため、音読カードを工夫した。
- ・授業中での取り組みとしては、課題把握した後、音読を様々な形で取り入れた。方法は次のようなものであった。

・一文読み	・追いかけ読み	・段落読み	・リレー読み
・たけのこ読み	・ひとり読み	・動作化読み	

・複数指導での音読指導

1年生では、複数での音読指導を週1時間、同一教室少人数指導の形態で行った。指導教材は、「詩」を用いた。追いかけ読みを中心に指導した。特に動作化読みを入れた音読を続けた。「詩」が短い言葉であったことや内容が分かりやすく楽しいものであったことにより、動作を入れやすかった。また、継続することで、内容を読み取る力の向上に効果を上げた。

中学年では、指導の役割分担を行い指導した。2人の教師が誤読をしていないか確認する役割と評価を行う役割に分かれた。役割分担をすることにより、評価をより確かにを行い児童の指導に生かすことができた。評価を残すため、座席表カルテを活用した。

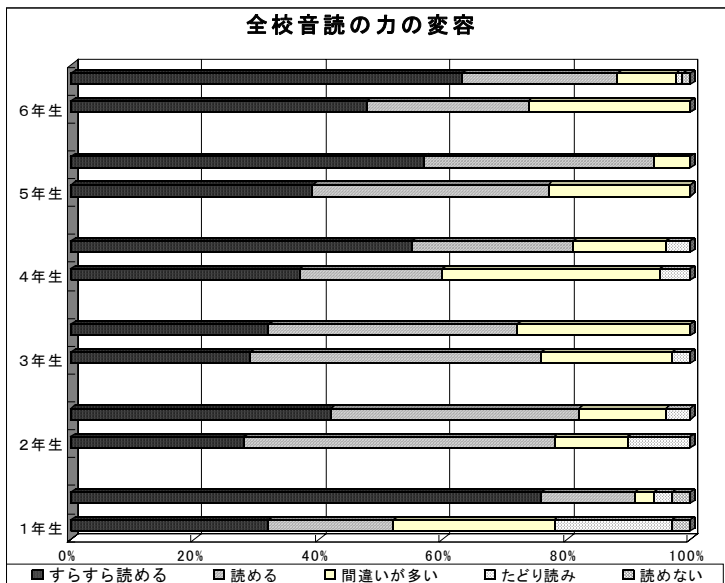
②教材開発と指導の工夫

- ・クイズ形式での音読指導
「のはらクイズ」「よみよみクイズ」等、クイズ形式で授業を構成し、そのためのワークシートを作成し指導した。「よみよみクイズ」では読解問題を入れた。問題は段階を考えて作成した。

「よみよみクイズワークシート」



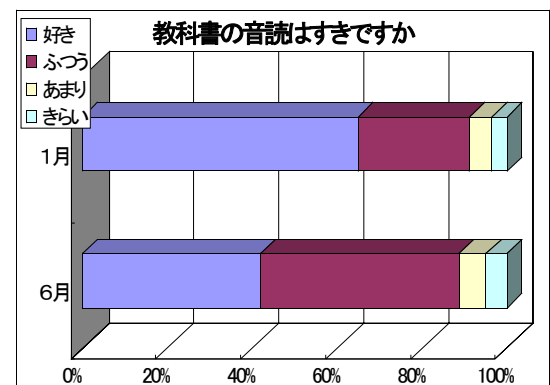
★音読の力の検査から



音読の力をはかるために、6月と1月に一人一人末習教材を音読させて検査した。左のグラフは、各学年での変容である。上側が1月であるが、どの学年も音読の力が向上したことが分かる。特に1年生では、そのその伸びが大きい。段階を追って丁寧な指導を行ってきたことが効果を上げているといえよう。

★音読に関する意識調査から

「教科書を読むことは好きですか」という意識調査では、肯定的に判断をする児童が増えていた。自分の音読の力が上がったことを喜びと感じていること、音読の楽しさが分かったことが大きな要因であると考えられる。



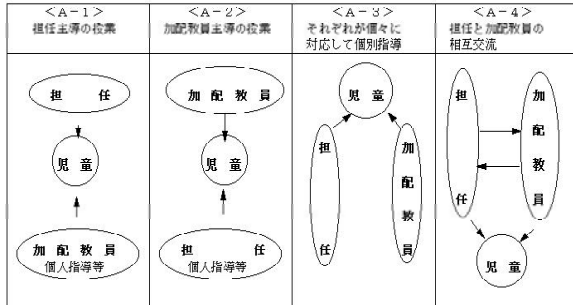
③指導法の工夫改善

・学習効果を上げるために、指導法を学習内容に応じて変えることを行った。複数教員の有効な活用を行うことで様々な指導形態を生み出すことができた。次のような方法で指導を行った。

学習形態の工夫改善

(A) 一斉指導学習

*1学級を担任と加配教員の2名で指導する。

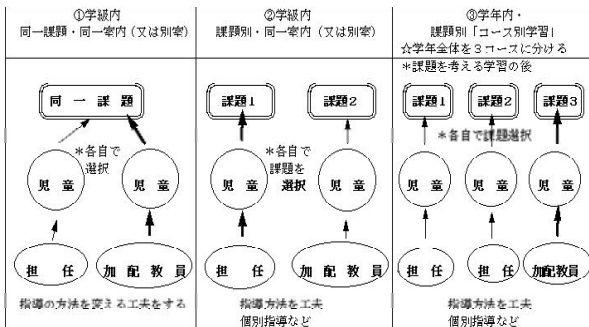


(B) 少人数学習指導

学年または学級を分け、通常の学級の人数より少ない人数で指導する。

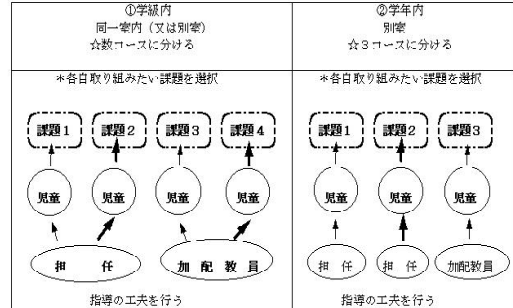
<B-1>習熟度別選択学習

児童が自分で自分の力に応じて選択したコース（習熟度別）で指導する。

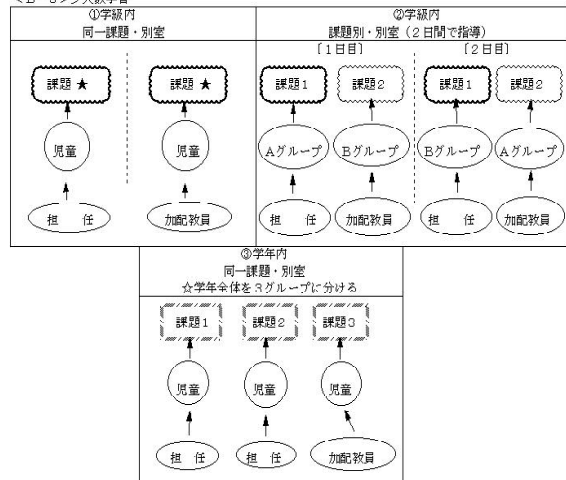


<B-2>課題別選択学習

児童が自分で課題を選択し、コースに分かれて指導する。



<B-3>少人数学習



・効果的な指導法の結果は、次の通りである。

(A) 一斉学習指導

<A-1> 新出漢字指導 国語辞典の使い方指導

<A-2> 音読指導 説明文・物語文の読むことの指導 ローマ字指導 漢字事典の使い方指導

<A-3> 漢字習熟指導 事典の使い方習熟指導 本の帯づくり指導 新聞づくり指導

<A-4> 考える場面での補助発問など

(B) 少人数学習指導

<B-1> ① 書くことの指導 (例 つづき話づくり 初発の感想文など)

(習熟度別選択学習指導) ② ワークシート別指導 (2~3種類のワークシートでの指導・学習のまとめ、自力解決の学習活動で)

<B-2> ③ 文章題自力解決学習……3~4コースに分けて

(課題別選択学習指導) ① 書くこと・話すことの指導

(例 3年生 『じてん作り』『放送番組』の課題に分かれて学習する。

4年生 発表方法ごとに分かれて、学習活動する。・テレビ番組……OHP、実演、模造紙・劇……人が演じる、ペーパーサート

4年生 リライト学習で、書く立場ごとに分かれて活動 ; ごんの立場・兵十の立場。

4年生 レポートを書くために調べる学習で、調べる内容ごとに分かれて活動する。

4年生 レポートを書く学習で、調べた内容ごとに分かれて活動する。)

② 話すことの指導

(例 3年生 役割ごとに分かれて学習する。司会・レポーター・かいせつ。

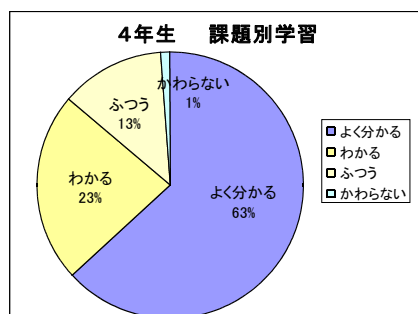
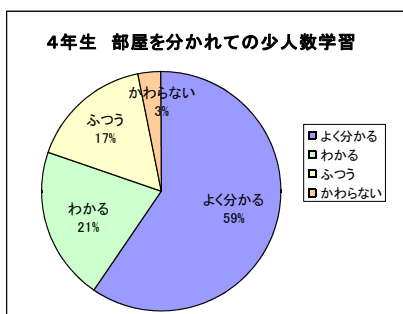
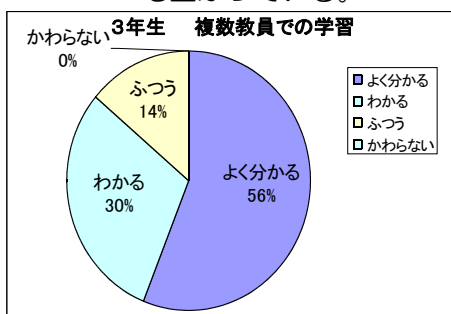
4年生 「生活のくふう」を調べる学習で、調べる方法で、分かれて活動する。インターネット、図書、家庭学習でインタビューしてきたもので。）

<B-3>
(少人数学習指導)

- ① *別室で
 - ・書写（硬筆 毛筆）
 - ・辞典の使い方の習熟指導
 - ・ローマ字習熟指導
 - ・評価テスト
- *同一室内
 - ・考えをまとめる場面で
 - ・ワークシートでの自力解決場面で
- ③ 話すことの指導
発表の練習で

★国語科意識調査から

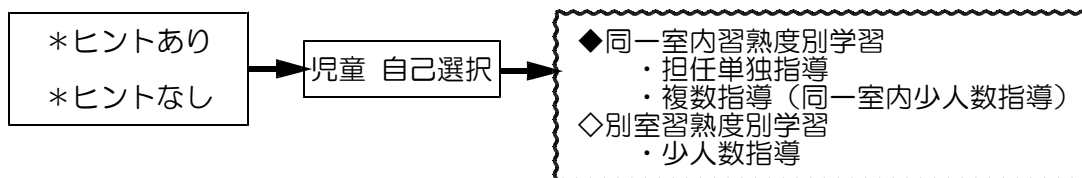
指導法の工夫は、中学年において集中的に行ってきた。その結果3・4年生では、複数指導、少人数指導、課題別指導を肯定的に受け入れていることが分かる。このことにより、学習効果も上がっている。



④習熟度別ワークシートの工夫

ア 自力解決のためのワークシートの工夫

- ・自力解決のために、ヒントを組み込んだワークシートとヒントなしのワークシートを2～3種類用意した。

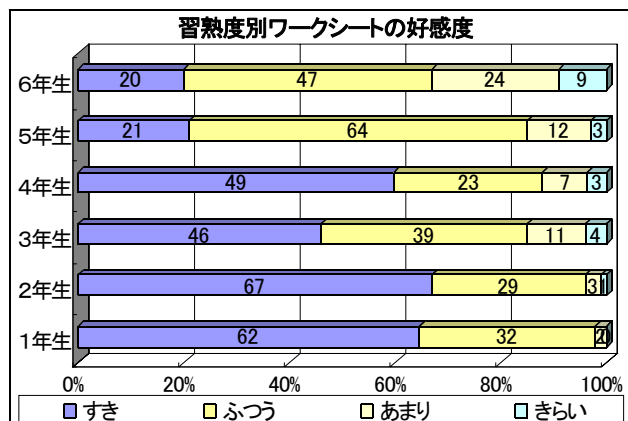
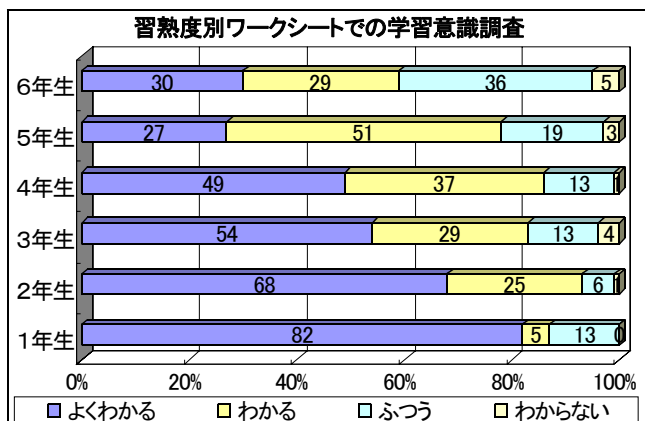


イ 学習のまとめのためのワークシートの工夫

- ・学習のまとめが自力でできるようなワークシートを工夫した。このシートでもヒントのあるものとヒントのないものを作成した。

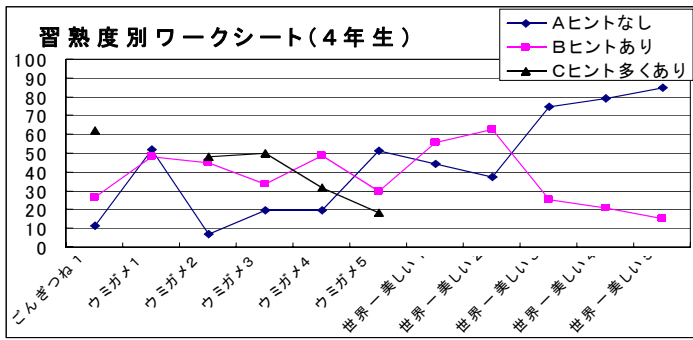
ウ 感想ワークシートでの工夫

- ・初発の感想を書く活動でのワークシートでも、自由に書くことができるシートと書く項目を上げたシートを用意した。



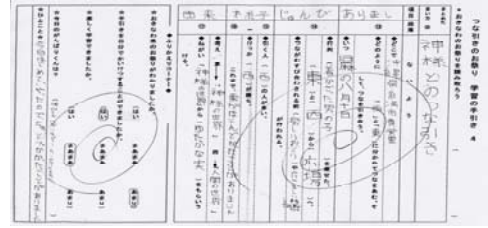
★国語科意識調査から

習熟度別ワークシートでの学習を理解しやすい・好きと肯定的に判断している児童が多い。特にそれを活用した学習を回数多く行った4年生までの学年では、ほぼ半数の児童が、好意的に感じていることが分かる。



習熟度別ワークシートの自己選択の変容を見た調査では、ヒントありのシートの選択からヒントなしのシートへ移行している児童が多いことが分かる。このことは、児童の学びへの意欲が、自己の学力の向上に向いているからであろう。

[習熟度別ワークシート・ヒントあり]

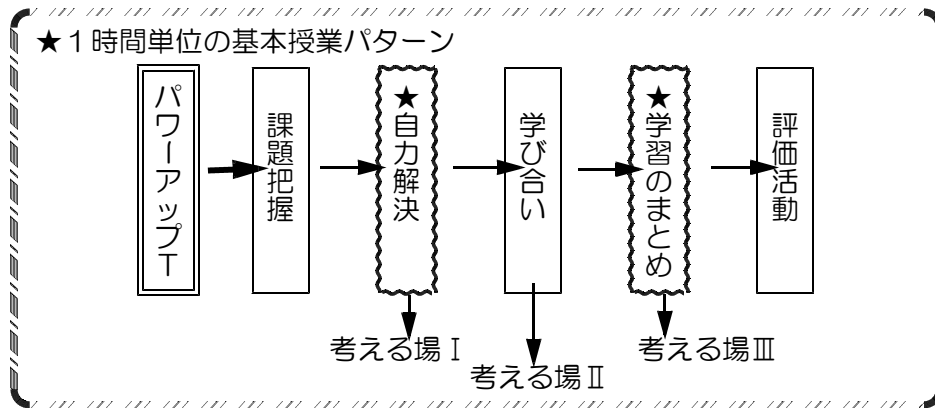


(2) 考える場を大切にしたい授業づくり

①指導パターンの工夫

考える場の設定

・考える場は、読む力につながる大切な場と考えた。それは、自力で考えることにより、読む力につながる意欲が増すだけでなく、分かった時の喜びが次の意欲につながり、ひいては自ら学ぶ姿勢をつくると考えたからである。また、考える力は、全ての教科・領域の学習に生かされることも考えたからである。そこで、次のような指導のパターンを1時間単位の授業パターンの基本とした。



*パワーアップタイム……復習タイム、基礎力タイムなどに活用した。(5分間)

- ・前時の復習タイム……確認テスト
- ・読む力をつける問題を数問行うタイム
- ・漢字テストタイム
- ・視写タイム
- ・音読タイム

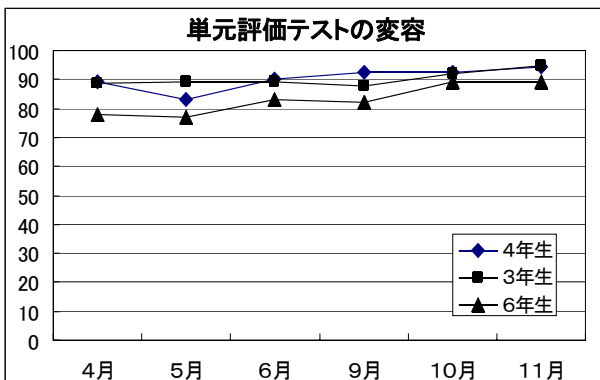
*考える場Ⅰ……習熟度別ワークシートなどで行った。

*考える場Ⅱ……話し合い活動とした。(発言力をつけること、理由づけ発言の習慣、支持的風土のある学級づくりなどを行った。)

*考える場Ⅲ……習熟度別ワークシートなどで行った。

②話し合い活動の力をつける指導

- ・学習規律を確立した。
- ・学級づくりに力を入れることにより、学び合う場を確立した。
- ・発言力の育成を行った。
- ・理由づけ発言を習慣づけることで、学び合いの質を高めた。

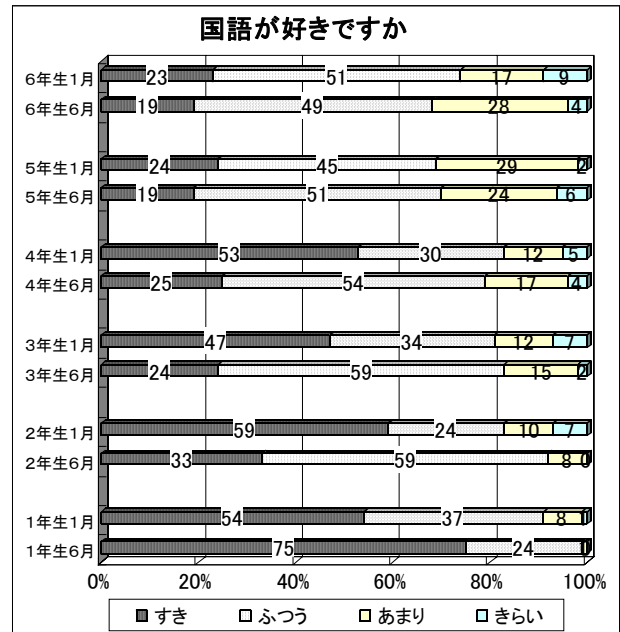
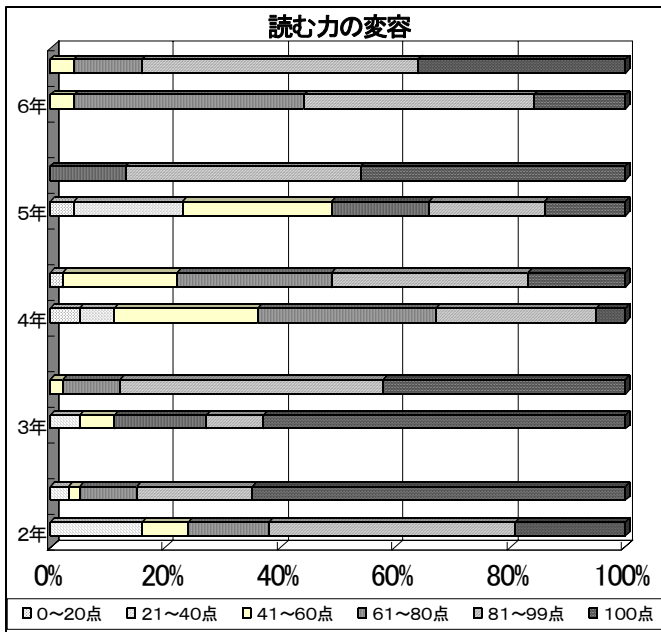


★国語科単元評価テストから

取り組みにより単元終了後に行う評価テストの成績が向上した。特に習熟度別ワークシートを活用した指導を行った単元では、その伸びが大きかった。

★国語科意識調査から

6月と1月の「国語科が好きですか」の調査では、2年生から6年生で肯定的な判断に変容した。上のよう様々な取り組みによる成果であると考えられる。



★読む力の調査から

6月と1月に読む力をはかるための文章題による検査を行い、変容を分析した。それによると81点以上の得点を獲得した児童が増加したことが分かった。満点の児童が増加したことも、成果の現れである。このことから、「読むこと」において学習内容に応じた指導法の工夫と習熟度等に合わせたワークシートの工夫を行うことにより、児童に主体的に学ぶ力と、読む力をつけることができたと言える。

2. 今後の課題

- (1) 授業づくりに力を入れ、考える力を大切に授業を行ってきたが、学習を終えて分かったことや考えたことをまとめる力は、まだ身につけていない。ものの見方・考え方を育てるためにも考える力を育成する必要があると考える。そこで、授業改善に努める必要がある。
- (2) 国語科、算数科での全学年を見通した系統的な教材開発と指導法の開発を行うため、本年度の国語科のように来年度算数科でも領域を絞って研究を行う必要がある。
- (3) 14年度は算数科中心で、15年度は国語科中心での研究であったため、それぞれが充実しての研究が行われたが、全学年を通しての系統的な研究開発にはなっていない。加配教員が、有効に生かされるよう、カリキュラムの見直しを行い、全学年に加配教員が関わっての研究開発を行う必要がある。
- (4) 研究の母体を国語科と算数科の部会におき、研究の深まりを目指す必要がある。そのために、研究推進体制を見直す必要がある。

IV 学力等把握のための学校としての取組

1. 全国標準学力検査（NRT検査）
 - ・検査対象・・・2～6学年
 - ・検査時期・・・4月
 - ・目的・・・昨年度の成果と本年度の課題を把握する。
2. 国語科意識調査
 - ・検査対象・・・1～6学年
 - ・検査時期・・・6月と1月
 - ・目的・・・課題を把握するとともに実態の変容を把握する。
3. 国語科学力調査
 - ・検査対象・・・1～6学年
 - ・検査時期・・・6月と1月
 - ・目的・・・課題を把握するとともに実態の変容を把握する。
4. 単元評価テスト
 - ・検査対象・・・1～6学年
 - ・検査時期・・・単元終了時毎
 - ・目的・・・単元の理解度評価

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 研究会の開催

- ・日時 11月14日(金)
- ・場所 本校 国語ルーム 井口台中学校体育館
- ・対象 広島市西区・中区・佐伯区の学校
- ・目的 地域の学校にフロンティアスクールとしての取り組みを公開すること
- ・反響 複数指導の在り方、指導法の工夫を評価された。

2. 研究成果普及のために

- ・HP作成と随時の更新
- ・研究紀要の作成を行い、市内の学校に配布

3. フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動

- ・地域の大学のシンポジウムでの発表
- ・学校訪問者への対応での研究説明
 - △三原市立田野浦小学校
 - △三原市立須波小学校
- ・反響・・・シンポジウムでの発表で指導法の工夫や教材開発を評価された。
学校訪問者に複数指導の在り方を評価された。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T、Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無